

火花

著 又吉直樹
文藝春秋

F

紹介文

売れない芸人である徳永の話である。先輩芸人である売れない神谷と出会い、神谷は多くの人に嫌われているのに徳永はその神谷に芸人として、人として魅力を感じるというストーリー。人生はいいことばかりでないと思うけれど、努力をしていたらいいこともあるということを考えさせられる物語。神谷によって、芸人だけにとどまらず、人間として成長していく徳永がすごいと思う。自分のあこがれで目指す人がいると自分も相手も成長することができる。

倉敷市立南中学校 2年

芸人の先輩と後輩が運命のように出会ってから劇は始まった。笑いとは何か。生きるとは何なのかを教えてください。作者の又吉さん自身がピースというコンビで芸人をしていて、売れるためにもたくさんの苦悩と戦い、又吉さんならではの1冊だと思います。「人と違うことをせなあかん」と悩んでいる主人公と同じで少しでも悩みがあるという人に読んでもらいたいです。また、悩みがない人にも少し笑ってしまうようなストーリーなのでどんな人でもきっと気に入ってもらえる1冊になるのではないのでしょうか。

倉敷市立東陽中学校 2年

～難局を乗り切るには……～



夜を乗り越える

著 又吉直樹
小学館



ミムス =宮廷道化師=

作 リリ・タール
訳 木本栄
装画 東逸子
小峰書店

F



ラッコの家

著 古川真人
文藝春秋

F

“人間”について考える芸人であり、芥川賞作家でもある又吉さんの熱いメッセージ『夜を乗り越える』。読み進めることで生き抜いていくこととは、こうも壮絶、且つ生々しいものであるかを思い知らされる宮廷道化師のお話『ミムス』。老いてからも、人は生きていかなければならないけれど……『ラッコの家』。どの作品も重いテーマですが、時にあなたの生きていくためのヒントをくれるかもしれません。



わたしが障害者じゃなくなる日

著 海老原宏美
旬報社

考え方で障害はなくせる

岡山理科大学附属中学校 2年

紹介文

1歳半で脊髄性萎縮症と診断された海老原宏美さん。高校を卒業するまで車いすで過ごしていたけど周りの人のサポートで普通の学校に通っていた。しかし就職活動の時に「あなたの体では働けない。」と言われ、自分には重度の障害があることを知った。しかし前向きな考えを持って過ごしていく。例えばこの建物に自分が入れないのは、この建物に障害があるからなど私たちに今までなかった考えをつたえてくれる本です。

岡山理科大学附属中学校 2年

～障害って何だろう～



障害者とともに働く

著 藤井克徳、星川安之
岩波書店



ママは身長100cm

著 伊豆名夏子
ディスカヴァー・トゥエンティワン



こんな夜更けにバナナかよ

筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち
著 渡辺一史
文春文庫

『障害者とともに働く』では、障害のある人もない人も共に、働き、暮らしていける社会について考えさせられます。この本には、それを実現するためのヒントが隠されているかもしれません。私たちは「出来ること」と「出来ないこと」をどこで線引きし、決断してしまっているのでしょうか。“いっしょに”、“手伝って”共に助け合って生きていくためにはどうすれば良いのだろう……。『ママは身長100cm』、『こんな夜更けにバナナかよ』では、作者が体験したことをとてもわかりやすく伝えてくれています。



君は月夜に光り輝く

F

著 佐野徹夜

KADOKAWA / メディアワークス文庫

生きることの儚さを再確認させられます

倉敷市立西中学校 2年

出会いと人生

和気町立佐伯中学校 3年

紹介文

生きることができないまみずと、生きることになげやりな卓也。真反対の二人だが卓也はまみずのわがままにつきあわされる。そんな中で卓也の心境の変化と、死が近づいてくるまみずのすれちがいが泣けてきます。作者の一つ一つの言葉選びや、よみ手をわくわくさせる文章。とても引きずりこまれます。映画化もされている感動作です。ぜひみなさんよんでみてください。

倉敷市立西中学校 2年

この物語は登場人物一人一人が必死で精一杯生きています。病気で死期が近づく彼女とどこかなげやりに生きている僕が出会うことによって生き方が変わります。なげやりに生きている人も、もう一度生き方を考え直すことのできる本です。

和気町立佐伯中学校 3年

～今の感性を大切に……～



もう一度人生をやり直したとしても、また君を好きになる。

F

著 蒼山皆水
KADOKAWA



今夜、世界からこの恋が消えても

F

著 一条岬
KADOKAWA /
メディアワークス文庫

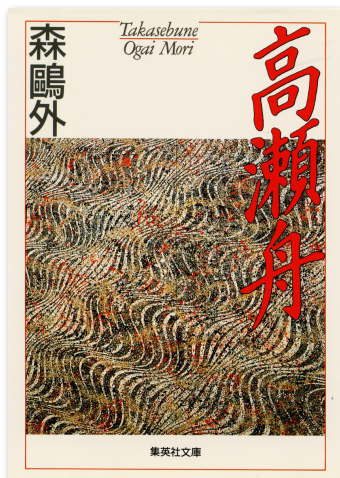


すべての瞬間が君だった
きらきら輝いていた僕たちの時間

F

著 ハ・テワン
訳 吳永雅
マガジンハウス

もう一度大切な人を幸せにするために、時間を巻き戻すことに力を使ってしまう主人公の真つすぐな愛の結末は……『もう一度人生をやり直したとしても、また君を好きになる。』。偽りの恋のはずが……『今夜、世界からこの恋が消えても』。この人がいない人生は考えられない！『すべての瞬間が君だった』。どれも瑞々しい感性を持ち合わせた中学時代にぜひ手に取ってほしい作品。



高瀬舟

著 森鷗外
集英社文庫

F

人にとって尊厳死とは？

作成委員

紹介文

京都には高瀬川という川があり、島流しにされる罪人は高瀬舟に乗せられ京都から大阪へと送られる。京都町奉行の同心の羽田は弟殺しの罪で島流しになった喜助を護送するため、高瀬舟に同乗になった。一般的に高瀬舟に乗せられた者は悲しそうな素振りをするのだが、喜助はそのような様子を見せることなく楽しそうにしている。それを不思議に思った羽田は、喜助に事の次第をたずねる。そして、弟を殺したのは、自殺をはかったが死にきれずに苦しんでいた弟に頼まれてのことだったことも明かすのである。

新見市立新見南中学校3年

～悩みは文豪も同じ 今も昔も……～



杜子春

F

著 芥川龍之介
KADOKAWA/角川文庫
※カバーの絵柄は(株)かまわぬの手ぬぐい柄を使用しています。



杏っ子

著 室生犀星
新潮文庫



おとなになるってどんなこと？

著 吉本ばなな
筑摩書房

“お金がたくさんあることは幸せ”と、つい考えがちな私たち。『杜子春』の主人公は、人生で、二度もお金持ちになれる経験をしたけれど、果たして幸せになったでしょうか。一人娘の杏子の成長と、自らの波乱な人生の回顧録である『杏っ子』は、室生犀星、晩年の名作です。生きていくときに、大切な8つのことを人生の先輩で、人気作家の吉本ばななさんが若い人達に向けて重要なメッセージを送ります、『おとなになるってどんなこと?』。



君の臍臓をたべたい

F

著 住野よる
双葉社

生きるとは何かを問う

倉敷市立庄中学校2年

紹介文

この本は、生きることとは何なのか、ということや人を認める、愛する人になるということ、余命の短い山内桜良に僕（志賀春樹）が学んでいく成長ストーリーです。私は、この本で自分も生きることの大切さなどが学びました。悲しい結末だったけど、いい話（小説）なので、ぜひ読んでみてください。

県立津山中学校1年

余命僅かの女子高校生と本以外には無頓着な男子高校生の2人の「生きること」についての考えが詰め込まれた作品となっている。ストーリーはどこにでもあるようなものだが、読後深くいろいろなことを考えさせられる作品だと思う。ありきたりなストーリーで、タイトルも何もかも独創的すぎるかもしれないが、それ故に感動をよぶ作品となっているのでぜひ読んでほしい。

倉敷市立庄中学校2年

～生きていくことの意味について～



麦本三歩の好きなもの

F

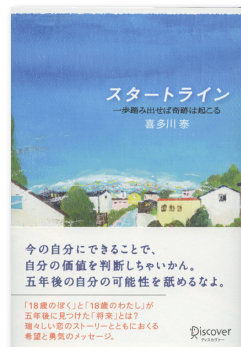
著 住野よる
幻冬舎



また、同じ夢を見ていた

F

著 住野よる
双葉社



スタートライン

F

著 喜多川泰
ディスカヴァー・トゥエンティワン

日常で、そっと気に入っていること、好きなことを大切にしたいくなる『麦本三歩の好きなもの』。人との出会いで、考え方がぐっと広がった気がする、そんな瞬間が人生にはきっとあると、思わせてくれる『また、同じ夢を見ていた』。大げさではなく、自分の可能性を信じることの大切さを気づかせてくれる『スタートライン』。日常は、意外と新鮮な出来事に溢れていることを教えてください。



最後の医者は桜を見上げて君を想う

F

著 二宮敦人
イラスト syo5
TOブックス

人間の「生」と「死」とは

津山市立津山西中学校3年

紹介文

限られた時間の中での患者と医者との葛藤や迷いが心に残りました。ただ辛く切ない話ではなく最後に残るほんの少しの希望に涙が止まりません。自分の余命を知った時、身近な人の余命を知った時、自分だったらどうするかを何度も考えさせられる本です。

倉敷市立南中学校2年

もし、あなたの寿命があと半年だとしたら……。あなたは何を思いますか？ある病院の医者・桐子は「死」を受け入れ、残りの日々を大切に生きる道もあると説きます。しかし、副院長・福原は奇跡を信じ最後まで「生」を諦めないと言います。あなたなら、「生」と「死」、どちらの人生を選びますか？

朝日塾中等教育学校2年

～病との関わり方とは……～



世の中への扉
甲子園がくれた命

著 中村計
講談社



泣くな研修医

著 中山祐次郎
幻冬舎

F



祈りのカルテ

著 知念実希人
KADOKAWA

F

ある日、突然、病気になってしまうときもある。そんなときに重い病気を力強く克服したという経験を持つ人の手記があれば……『甲子園がくれた命』。お医者さんにだって新人のときがあるのです。悩み苦しみそれでも、時間も、患者さんも待たなし！『泣くな研修医』。様々な人生が入り乱れる病院という場所を舞台にした医療ミステリー『祈りのカルテ』。生きていくときに切っても切り離せない病との関わり方とは……。



世界から猫が消えたなら

F

著 川村元気
小学館

さようならこの世界

瀬戸内市立邑久中学校3年

紹介文

明日死ぬと余命宣告をされた主人公が、一日分の命とひきかえに、世界から一つずつ何かを消していく物語ですが、今まで当たり前のようにあった何かを消していくことの辛さと苦しさに、本当に大切なこととは何か、考えさせられます。この世界から何かを消していくことと、自分自身が消えること、どちらを主人公は選ぶのか、最後まで読み手である私たちも自分に置きかえて読むことができるのでおすすめです。生きるとは何か、ということを教えてくれる本です。

倉敷市立南中学校2年

この物語は、世界から物を1つ消す代わりに1日、寿命を延ばす7日間の物語だ。この本はあらためて命の大切さに気づくことができるとても感動することができる。ぜひ、読んでみてください。

瀬戸内市立邑久中学校3年

～真実を探しに……～



きみが来た場所

F

著 喜多川泰
ディスカヴァー・トゥエンティワン



ナミヤ雑貨店の奇蹟

F

著 東野圭吾
KADOKAWA



少年と犬

F

著 馳星周
文藝春秋

先祖のことを想像したことがありますか？もしも、先祖の人の経験を子孫である私たちに見せてもらえることがあったら……『きみが来た場所』。幼なじみの3人が時空を超えて、悩み相談の手紙のやりとりをするうちに、今は閉店してしまっている古い雑貨店で起きる奇蹟！『ナミヤ雑貨店の奇蹟』。いつでもどうしようもない私たち人間なのに、心底からの信頼を寄せ付き合ってくれる犬と人との物語『少年と犬』。本当のことを見つけたい人はぜひ読んでみてください。



ライオンのおやつ

F

著 小川糸
ポプラ社

あなたの忘れられない“おやつ”はなんですか？

瀬戸内市立邑久中学校 3年

紹介文

私はこの本を読んだ後、いつのまにかポロポロと涙を流していました。でもそれは、「悲しい」の涙ではなく「良かった」と思う優しい涙でした。この本は病で余命数カ月と宣告された雫が瀬戸内海に浮かぶ島の施設へ行きそこで出会う色々な人々の思い出のおやつを食べる話です。あなたもこの本を読み、思い出のおやつを食べてみては？

瀬戸内市立邑久中学校 3年

～“幸せ”とはどんなことか～



とわの庭
著 小川糸
新潮社

F



女の子が生きていくときに、
覚えていてほしいこと
著 西原理恵子
カバーデザイン 西村弘美
KADOKAWA



幸せになる勇気
自己啓発の源流「アドラー」の教えII
著 岸見一郎
著 古賀史健
ダイヤモンド社

辛い悲しい境遇を憂えたままで終えてしまうか、しっかり前を向き直せるか？その境目は一体どこにあるのか？『とわの庭』を開いてみてください。西原理恵子さんからの熱いメッセージ！『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』は女子の新しいバイブルとなること間違いなし！『幸せになる勇気』には、精神科医であり、心理学者であるアドラーからあなたが幸せになるための本気のアドバイスが満載です。



いのちの花

著 向井愛実

WAVE 出版（2014年8月刊行）

捨てられた犬と猫の魂

倉敷市立南中学校 2年

紹介文

この本の作者は、青森県の農業高校の卒業生です。この人たちは、捨てられ殺処分されてしまった犬と猫の骨を肥料にして花を育てることにし、成功しました。骨をくたく作業はとても苦しく、大変そうだと感じました。命を花にうけついでいてすごいと思いました。命の大切さについて教えてくれる本です。

倉敷市立南中学校 2年



～生き物たちの“生きる”を考える～



犬たちをおくる日
この命、灰になるために
生まれてきたんじゃない

著 今西乃子
写真 浜田一男
金の星社



今泉先生教えて！
一度は猫に聞いてみたい100のこと

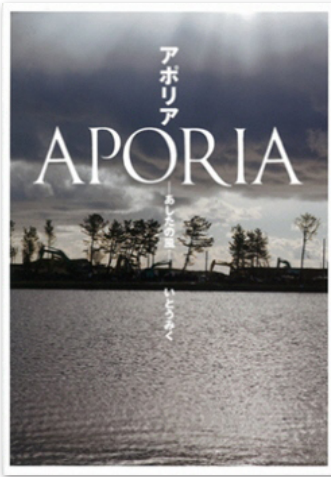
著 今泉忠明
宝島社



外来生物のきもち

著 大島健夫
メイツ出版

捨てられていい命なんて一つもない……読めば必ずそう思える『犬たちをおくる日』。『一度は猫に聞いてみたい100のこと』は、いつも不思議に感じる猫の行動をわかりやすく、動物学者の小泉先生が教えてくれます。『外来生物のきもち』の著者、大島先生は、詩人です。でも、とても生き物の生態に詳しい方です。“外来生物”と、一括りで言うけれど、性格、性質、日本に来た時期などそれぞれ違うのです。読んでいるうちに今までよりずっと親しみが湧いてくるかもしれません。



アポリア あしたの風

F

著 いとうみく
写真 穴戸清孝
童心社

紹介文

この本を読んで大地震のおそろしさとかみんなとの協力がどれだけ大切なのかがよく分かった。母親を失ったけどそれでも生きようとする一弥（いちや）に感動した。絶望の果てにひと筋の希望を見つけられる本だ。

玉野市立八浜中学校2年

自分が信じられず、まわりの人との距離感もつかめなくなり、3か月前から引きこもっていた中2の一弥を巨大地震と津波が襲います。死と隣り合わせの非日常の中で、それぞれ大切な家族を思い、悩む登場人物たち。“アポリア”とは問題を解こうとする過程で出会う難関のこと。さて、人間関係を断ち切ったはずの一弥はどうするのでしょうか？あなたも一緒に悩んで、考えて下さい。

作成委員

～家族とは！？～



団地のコトリ

F

作 八束澄子
ポプラ社



明日の子供たち

F

著 有川浩
幻冬舎



そして、バトンは渡された

F

著 瀬尾まいこ
文春文庫

“生きる”上で、良くも悪くも家族との関係には悩まされますね。『アポリア』の一弥はこれから先、おじさんや片桐さんと新たな関係を築き、生きていくことでしょう。『団地のコトリ』は、母子家庭で、進路に悩みながらもバレー部で頑張っている中3の美月が主人公です。同じ団地の階下で一人暮らしをしているはずの老人の部屋にある少女の姿を見つけます。家族と暮らせないことが“可哀想”とイコールではないと気づかせてくれるのは、『明日の子供たち』です。親に翻弄され、生きるために家族と離れ、児童養護施設で育った高校生の奏子たちが描かれます。『そして、バトンは渡された』の優子（高3）には、母が2人、父が3人います。家族の形態は変わっても、愛があるから大丈夫、生きていけます！